

令和 2 年度前期日程入学試験【物理】

導出過程は一通りではないので省略してあります。論述による解答は例示です。

1

問 1 (1) $x = v_0 t \cos \theta$

$$y = v_0 t \sin \theta - \frac{1}{2} g t^2$$

(2) $y = x \tan \theta - \frac{g}{2v_0^2 \cos^2 \theta} x^2$

(3) $h = -\frac{g\ell^2}{2v_0^2} \tan^2 \theta + \ell \tan \theta - \frac{g\ell^2}{2v_0^2}$

(4) (3) の結果より, $h = -\frac{g\ell^2}{2v_0^2} (\tan \theta - \frac{v_0^2}{g\ell})^2 + \frac{v_0^2}{2g} - \frac{g\ell^2}{2v_0^2}$. したがって, $\tan \theta_H = \frac{v_0^2}{g\ell}$

問 2 (1) 弾む直前の小球の運動量の x, y 成分はそれぞれ, $mv_0 \cos \theta, -mv_0 \sin \theta$

弾んだ直後の小球の運動量の x, y 成分はそれぞれ, $mv_0 \cos \theta, emv_0 \sin \theta$

(2) 弾んだときに小球が失った力学的エネルギーは

$$\frac{1}{2} m (-v_0 \sin \theta)^2 - \frac{1}{2} m (ev_0 \sin \theta)^2 = \frac{1-e^2}{2} m v_0^2 \sin^2 \theta$$

(3) 原点 O から点 C までの距離は $\frac{2v_0^2 \sin \theta \cos \theta}{g}$. 点 C から点 D までの距離は $\frac{2ev_0^2 \sin \theta \cos \theta}{g}$.

したがって, 原点 O から点 D までの距離は $\frac{2(1+e)v_0^2 \sin \theta \cos \theta}{g}$

(4) 原点 O から小球が等速直線運動を始める点までの距離は

$$\frac{2(1+e+e^2+\dots)v_0^2 \sin \theta \cos \theta}{g} = \frac{2v_0^2 \sin \theta \cos \theta}{g} \sum_{n=0}^{\infty} e^n = \frac{2v_0^2 \sin \theta \cos \theta}{(1-e)g}$$

2

問1 (1) 水平左向き

(2) オームの法則より、電流の大きさは $\frac{V}{R_0}$

(3) 力のつり合いの式 $mg = \frac{V}{R_0}BL$ より、 $R_0 = \frac{VBL}{mg}$

問2 (1) $mg > \frac{V}{R}BL$ より、 $R_0 < R$

(2) 導体棒に流れる電流の大きさを I とすると、キルヒホッフの法則より、 $V + vBL = RI$.

したがって、 $I = \frac{V + vBL}{R}$

(3) 力は鉛直下向きにはたらき、その大きさは

$$mg - IBL = mg - \frac{VBL + vB^2L^2}{R} = mg - \frac{VBL}{R} - \frac{vB^2L^2}{R}$$

(4) (3) の結果で力の大きさを 0 とすると、 $v_1 = \frac{mgR}{B^2L^2} - \frac{V}{BL}$

(5) 落下にかかる時間 Δt は $\Delta t = \frac{h}{v_1}$ であり、抵抗を流れる電流の大きさ I_1 は $I_1 = \frac{mg}{BL}$ なので、

$$\text{発生するジュール熱は } RI_1^2\Delta t = \frac{mgh}{1 - \frac{BLV}{mgR}} = mgh + mgh \frac{\frac{BLV}{mgR}}{1 - \frac{BLV}{mgR}}$$

3

問1(ア) 0 (イ) $\frac{3}{2}nR\Delta T$ (ウ) $\frac{3}{2}R$ (エ) $pV = nRT$

(オ) $nR\Delta T$ (カ) $\frac{3}{2}nR\Delta T$ (キ) $\frac{5}{2}R$

問2 (1) 1 サイクルの間に理想気体が外部にする正味の仕事は $(x - 1)p_0V_0$

(2) 単原子分子理想気体の状態方程式を用いて

$$T_B = x \frac{p_0V_0}{nR} = xT_0, \quad T_C = 2x \frac{p_0V_0}{nR} = 2xT_0, \quad T_D = 2 \frac{p_0V_0}{nR} = 2T_0$$

(3) 定積モル比熱 $C_V = \frac{3}{2}R$ を用いて

$$Q_{A \rightarrow B} = nC_V(T_B - T_0) = \frac{3}{2}nR(xT_0 - T_0) = \frac{3}{2}(x - 1)nRT_0$$

$$Q_{C \rightarrow D} = nC_V(T_D - T_C) = \frac{3}{2}nR(2T_0 - 2xT_0) = -3(x - 1)nRT_0$$

(4) 定圧モル比熱 $C_p = \frac{5}{2}R$ を用いて

$$Q_{B \rightarrow C} = nC_p(T_C - T_B) = \frac{5}{2}nR(2xT_0 - xT_0) = \frac{5}{2}xnRT_0$$

$$Q_{D \rightarrow A} = nC_p(T_0 - T_D) = \frac{5}{2}nR(T_0 - 2T_0) = -\frac{5}{2}nRT_0$$

(5) 上の問題の結果より, サイクルの熱効率 $e = \frac{(x - 1)nRT_0}{\frac{3}{2}(x - 1)nRT_0 + \frac{5}{2}xnRT_0} = \frac{2(x - 1)}{8x - 3}$

(6) (5) の結果より, $x = 2$ のときの熱効率は $e = \frac{2}{13}$, $x = 10$ のときの熱効率は $e = \frac{18}{77}$

グラフは下図.

